

（仮称）旧市立図書館跡地地域交流センター建設基本設計（素案）

2025年（令和7年）12月
明石市

目次

1	設計コンセプト	1
2	設計方針	1
3	計画概要	2
4	配置計画	3
5	平面計画	5
6	立面計画	6
7	断面計画	6
8	電気設備計画	7
9	機械設備計画	7
10	構造計画	7

1 設計コンセプト

明石公園旧市立図書館跡地利活用計画(2024年(令和6年)10月策定)

整備方針	・新施設は、多くの方々に愛される公園施設となるよう市において検討する ・整備に当たっては、県と連携し、必要な協力・支援を受けながら国の補助金等を活用して財政負担の抑制を図る	
WEBアンケート・ワークショップ・パブリックコメント		
コンセプト	「いつでもみんなをやさしく包む居場所」	
主な機能	・自然の中で心地よく過ごせる居場所としての機能 ・明石公園でのさまざまな活動を支援する多目的な機能	・みんなが自由に集まり交流できる機能

設計業者選定・ワークショップ

2 設計方針

①誰でも気軽に訪れやすい、みんなを迎え入れる施設

- ・県立図書館へのメイン動線となる『森のナカミチ』
- ・スロープと融合した施設内はすべてフラット
- ・世代を問わず、みんなが使いやすく、分かりやすい
- ・誰でもがそれぞれの居場所を見つけられる、多様な空間

②明石公園の自然に包まれた空間で、多様な人々が集い、活動・交流を育む『森のコモンズ』

- ・明石公園のランドスケープをそのまま活かした交流空間
- ・『森のナカミチ』に沿って、様々な活動が繋がる
- ・様々な活動・交流の在り方を包み込む柔らかな空間
- ・県立と市立が融合する図書館を活かした複合施設の新しいカタチ
- ・多様な使い方ができるエディブル（編集可能）建築
- ・災害時の一時避難施設としても活用しやすい防災施設

③明石公園の自然を最大限に活用し、光と風と緑を活かす省エネ建築

- ・森のアプローチから続く光と風の通り抜けの継承
- ・施設特性を踏まえたZEB Ready実現
- ・ローメンテナンスな長寿命建築

④敷地の特殊条件をプラスに活かし、工事費を抑制（工期を短縮）

- ・旧市立図書館解体撤去後の埋戻し土を最小化
- ・軽量で短期間に建てられる構造
- ・メリハリと合理性のあるコスト配分
- ・液状化対策など防災に配慮し、施設を合理化
- ・県立図書館の利用を妨げず、施工しやすい配置

3 計画概要

【付近見取り図】



【敷地概要】

建設地	明石市明石公園 1 - 27
敷地面積	約6,000㎡(今後県との協議により決定)
区域区分	市街化区域
用途地域	第一種中高層住居専用地域
許容建蔽率	60%
許容容積率	200%
高度地区	第3種高度地区
都市施設	公園(明石公園)
その他	宅地造成等工事規制区域 建築基準法第22条区域 都市機能誘導区域(明石東部地域(JR山陽明石駅周辺地域)) 広域公園
道路幅員	7.0m(市道太寺上ノ丸線11号線(1号道路))

【施設概要】

主要用途	地域交流センター
工事種別	新築
構造	鉄骨造
建築面積	1,092㎡
延床面積	999㎡
階数	地上1階
最高高さ	10.7m

【導入機能】

施設部分	会議室、フリースペース、ギャラリー、コワーキングスペース、学習スペース、トイレ、多目的トイレ、更衣室、ベビーケアルーム、事務室(倉庫)、多目的ホール(倉庫)、大屋根広場
外構部分	園路(森のナカミチ)、芝生広場、ベンチ、駐輪場など

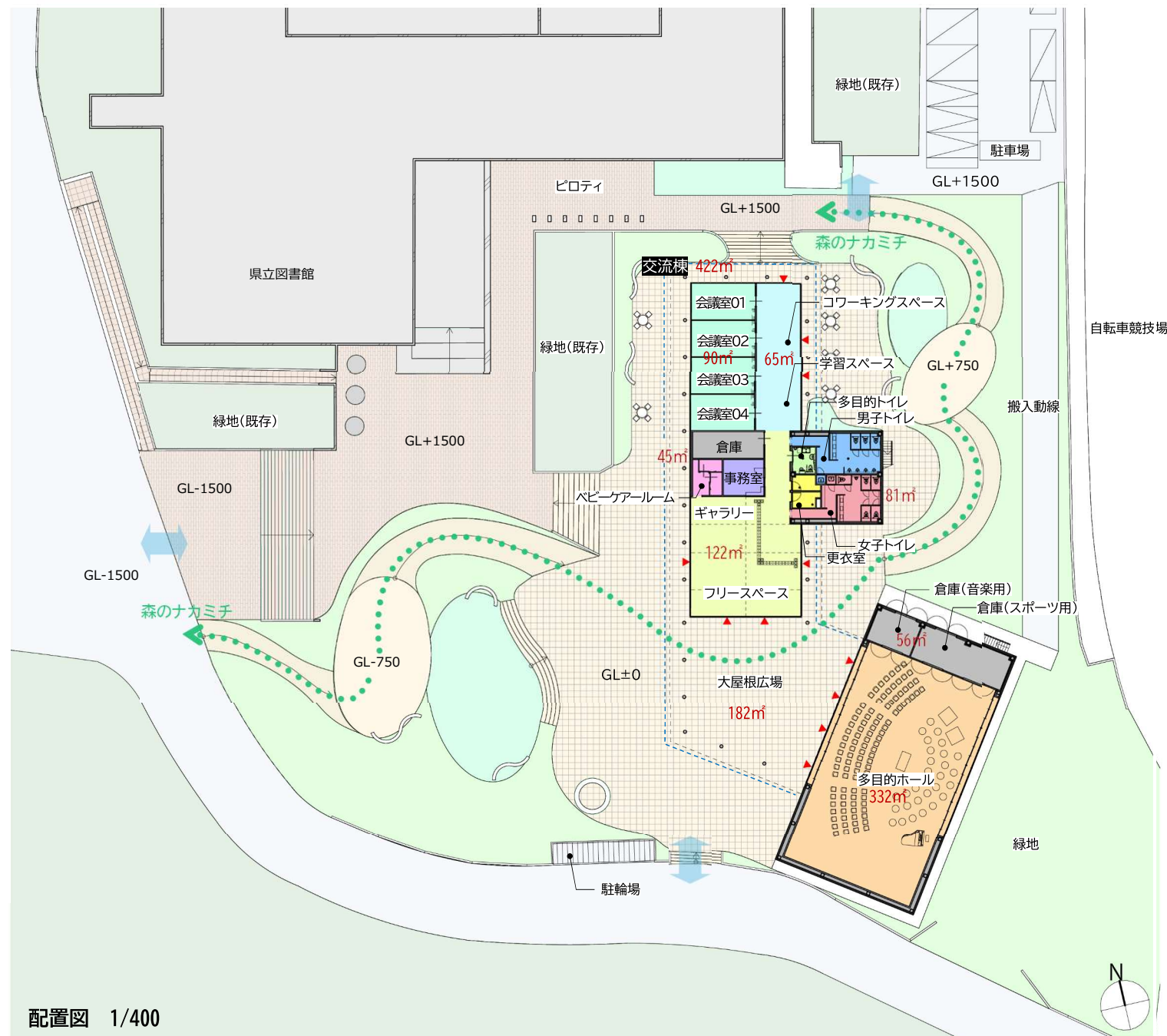
4 配置計画

・明石公園の魅力的なランドスケープや敷地内の高低差を活かし、自然と融け合う配置計画とします。



4 配置計画

- ・明石公園の魅力的なランドスケープや敷地内の高低差を活かし、自然と融け合う配置計画とします。
- ・西側園路から県立図書館へと繋がるゆるやかなスロープ『森のナカミチ』を配置
- ・『森のナカミチ』の中心に交流棟と多目的ホールを配置
- ・『森のナカミチ』に沿って芝生広場、木陰、ベンチなどを配置
- ・西側園路からの眺望や大屋根広場を広く確保するため、多目的ホールを敷地南東側に南北に配置
- ・交流棟と多目的ホールを大屋根広場で接続
- ・機材運搬などの負担を軽減するため、多目的ホールへの搬入動線を東側に配置
- ・多目的ホールの南東側に緑地を配置し、森の見えるホールを整備
- ・駐輪場を集約し、南側に配置
- ・南東側園路からのアクセス向上のため、南側に出入口を配置
- ・既存の樹木を活かしながら、明石公園の植生を考慮した植栽を選定



5 平面計画

交流棟

- 内外が分け隔てなく繋がるとともに、子供からお年寄りまで誰もが自分の居場所を見つけることができる柔らかな空間とします。
- 活動目的に合わせて利用者の手で気軽にアレンジできるエディブル(編集可能)な施設とします。

機能	主な仕様
会議室	4室(定員15人)・可動間仕切りにより一体利用可
フリースペース ギャラリー	可動パネル、可動家具、有孔板の壁などの導入 活動目的に合わせて容易にアレンジ可能な空間
コワーキング 学習スペース	集中しやすいレイアウトや家具什器の導入
トイレ 多目的トイレ 更衣室	防犯面、緊急対応などを考慮し、事務室前に配置 女性用トイレ：個室5室(幼児兼用1室)・パウダーコーナー 男性用トイレ：個室3室(幼児兼用1室)・小4基(幼児兼用1基)
事務室 倉庫 ベビーケアルーム	倉庫：会議室の机やいす、フリースペース用の備品などを収納 ベビーケアルーム：おむつ替えコーナー・授乳室2室・調乳用温水器

多目的ホール

- 演奏会、バレーボール・ミニバスケットボール・卓球などのスポーツ、談話・ワークショップ・講演会などの集会、予約がない時間帯のフリースペース利用など、多様な利用が可能なホールとします。
- 屋根のある屋外活動スペースである、大屋根広場と隣接し、建具を開放し一体的な利用を可能とします。
- 自然光を取り入れ、緑に包まれた利用環境とするためにガラスの開口部を設けつつも、スポーツ利用を考慮して防球・安全対策を行います。
- 吹奏楽などの音楽利用を想定した音響・遮音性能とスポーツ利用を想定した強度・安全性を考慮した内装とします。

機能	主な仕様
多目的ホール	バレーボール1面・バドミントン1面・卓球3面・ミニバス1面(小さめ)・ 演奏会100席・談話利用150席 前面背面一部ガラス張り(H2,000m程度)
倉庫	グランドピアノ・音響設備・机・椅子・スポーツ設備など収納

大屋根広場

- 交流棟と多目的ホールを繋ぎ、フリースペースや多目的ホールとの一体利用を可能とします。

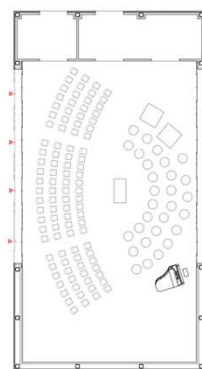
施設の位置関係



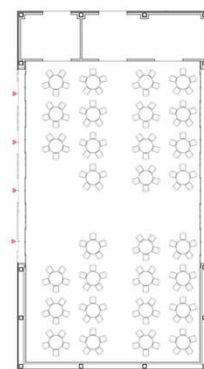
内外が繋がりがり一体的に利用できる空間



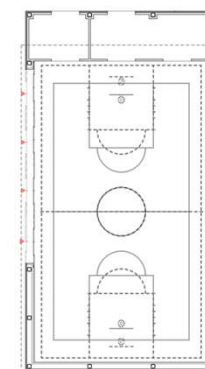
多目的ホール利用例



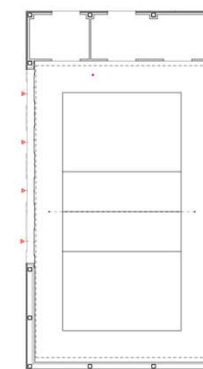
演奏会
(100席)



談話
(5人×30卓)



ミニバス1面
(W10m×D20m)



バレーボール1面
(W18m×D9m)

大屋根広場と軒下スペース

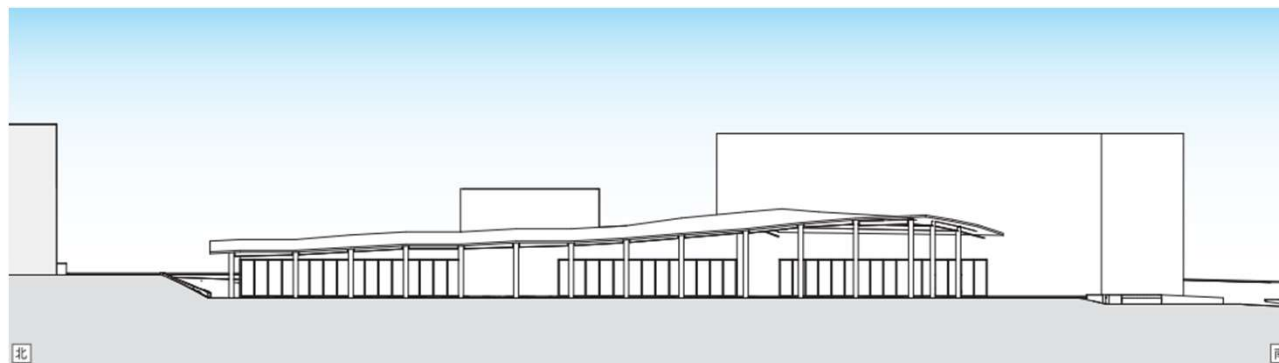


緑の中の滞在スペース



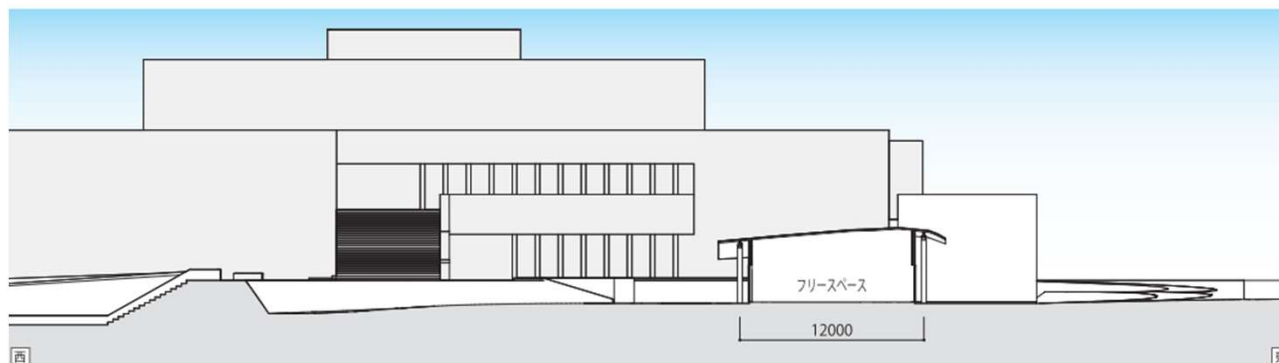
6 立面計画

- ・県立図書館や地形に馴染む穏やかな屋根により外観を構成します。



7 断面計画

- ・施設は上下移動が不要な平屋とし、全ての諸室を段差のない同じ床レベルとすることにより、誰もが利用しやすい施設とします。



8 電気設備計画

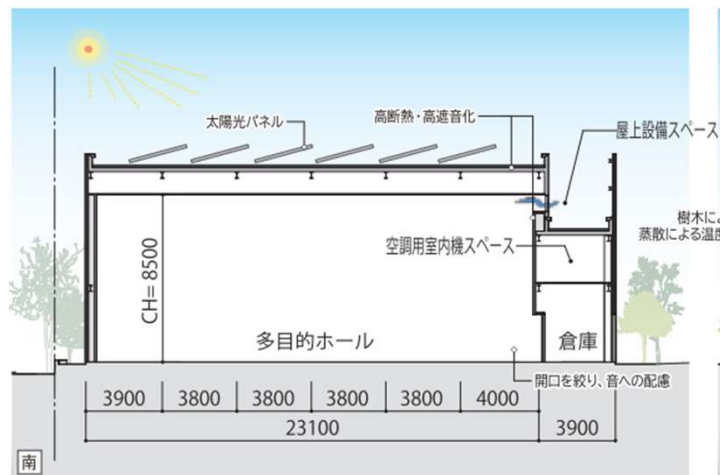
【基本方針】

- ・ ZEB Ready達成に向けた高効率機器(高効率変圧器、LED照明)を採用します。
- ・ 省エネルギーに配慮した照明制御方式(人感センサーによる点滅、タイマー制御、点灯区分)の細分化を行います。
- ・ 自然採光や太陽光発電システムを導入し、電力エネルギーを削減します。
- ・ 外構の照明は、アプローチの安全性確保とともに、公園内の緑地としての演出も考慮します。

【概要】

受電方式※	高压1回線受電
受変電設備※	変圧器容量125kVA 太陽光発電パネル10kw
電灯設備	照明設備、コンセント設備、誘導灯・非常用照明設備
通信設備	誘導支援設備映像・音響設備、テレビ共同受信設備
防犯設備	入退室管理設備、監視カメラ設備
防災設備	自動火災報知設備、非常・業務放送設備

※今後変更の可能性があります。



9 機械設備計画

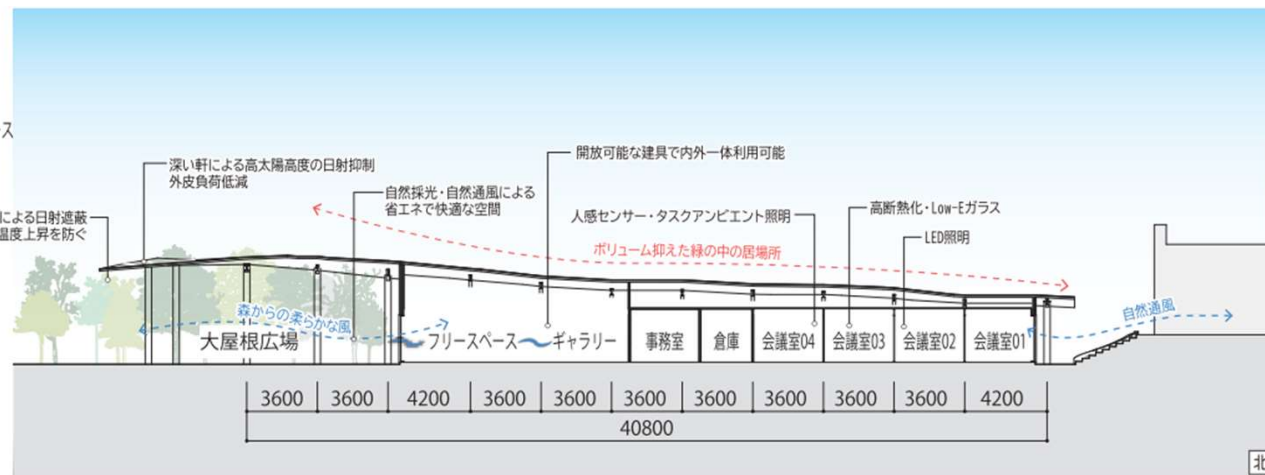
【基本方針】

- ・ 運転管理しやすいシステム、汎用品の採用、耐久性の高い機器や材料の採用により長寿命化とライフサイクルコストの低減を図ります。
- (給排水衛生)
- ・ 耐久性、保守性、節水、バリアフリーなどに配慮した衛生器具とします。
- (空調和)
- ・ 操作性、保守性を考慮し、高効率な機器を採用します。
- ・ 空調対象室の換気は原則、全熱交換型換気扇とし、空調負荷の低減を図ります。
- ・ 空間に合わせた快適性・省エネルギー性に最適な空調計画とします。
- ・ 主要な設備機器スペースを屋上に設け、容易に更新できるようにします。

【概要】

空調設備※	パッケージエアコン+全熱交換ユニット
換気設備	第1種換気、第3種換気
排煙設備	自然排煙・告示適用、機械排煙なし
衛生器具設備	節水型器具
給水設備	直結直圧方式
排水設備	屋内・屋外共、汚水・雑排水合流、雨水分流方式
消火設備	消火器
ガス設備※	都市ガス13A 給湯・キッチン用

※今後変更の可能性があります。



10 構造計画

【基本方針】

- ・ 耐震性能は、「官庁施設の総合耐震・耐津波計画基準」等に基づき、II類とし、1.25の重要度係数を設定します。
- ・ 構造種別は鉄骨造で、空間のフレキシビリティに配慮します。
- ・ 基礎は杭基礎とし、堅固な支持層に達せさせることで建物荷重を支持します。

【概要】

耐震性能	II類
構造種別	鉄骨造
構造形式※	ブレース付きラーメン構
基礎形式※	杭構造

※今後変更の可能性があります。

◎建設工事費(概算)

7.6億円(税込)(新築工事及び外構工事)

※解体撤去工事や家具什器等にかかる費用などは別途
※今後の物価上昇等により、コスト変動やコスト調整
よる施設の延床面積の増減・計画の変更が生じる可能性があります。